

# Sakawa-cho historical city planning

Department Of Infrastructure Systems Engineering

1115125

Takakazu Yorimitsu

## **Construct:**

Sakawa-cho has a lot of historical cultural assets including Takemura family house and Tsukasabotan brewer now.

According to our town research in fiscal year 2008, however, we found that the number of historical buildings have been half below compared with about 20 years ago.

Then, we suggested Sakawa-cho historical city planning to systemize the network of scattered historical buildings.

After selecting the district for the plan we zoned the land use, and the maintenance policies of each division were decided.

We selected the base district of historical city planning in the district for the plan, and we suggested maintenance policy to each district.

Arranged facilities were designed based on the plan of Sakawa-cho historical scenic improvement convention.

## **A district:**

United use with local facilities including Sake gallery "Hotei" or Meikyokan which is scheduled of dismantling and reconstructing the building is considered. Hamaguchi family house and old Aoyama library were repaired as Japanese-style hotel and visitor center.

## **B district:**

We examined the restoration of the home at Makino Tomitaro's birth site, and the home was designed as Makino Tomitaro museum.

## **Key Word:**

Historical culture, Historical city planning, Historical building, Japanese-style hotel, visitor center, Makino Tomitaro museum.

## 佐川町歴史的まちづくり

社会システム工学コース 1115125

依光 孝和

### 1. はじめに

佐川町は竹村家住宅(平成19年度 国指定重要文化財) (写真1) や司牡丹酒造酒蔵(写真2)をはじめ、青源寺庭園や旧青山文庫など多数の歴史的文化遺産を有しており、佐川町HOPE計画やまちなみ環境整備事業等を通じて歴史的まちづくりを行っている。

現在、佐川町は歴史まちづくり法における歴史風致維持向上計画を策定し今後5年間の実施事業を予定している。そこで、本修士設計は図1に示す構成で佐川町歴史的まちづくり全体計画及び拠点地区の整備計画の提案を行った。

つまり、本修士設計は架空のプロジェクトではなく、来年度から行われる実施事業に向けての具体的な1つの提案であり、佐川町歴史的風致維持向上計画の一端を担うものである。

本修士設計は、これらの事業を通じて佐川町の歴史的まちづくりを行っていくことを大目的とする。



写真1. 竹村家住宅



写真2. 司牡丹酒造酒蔵

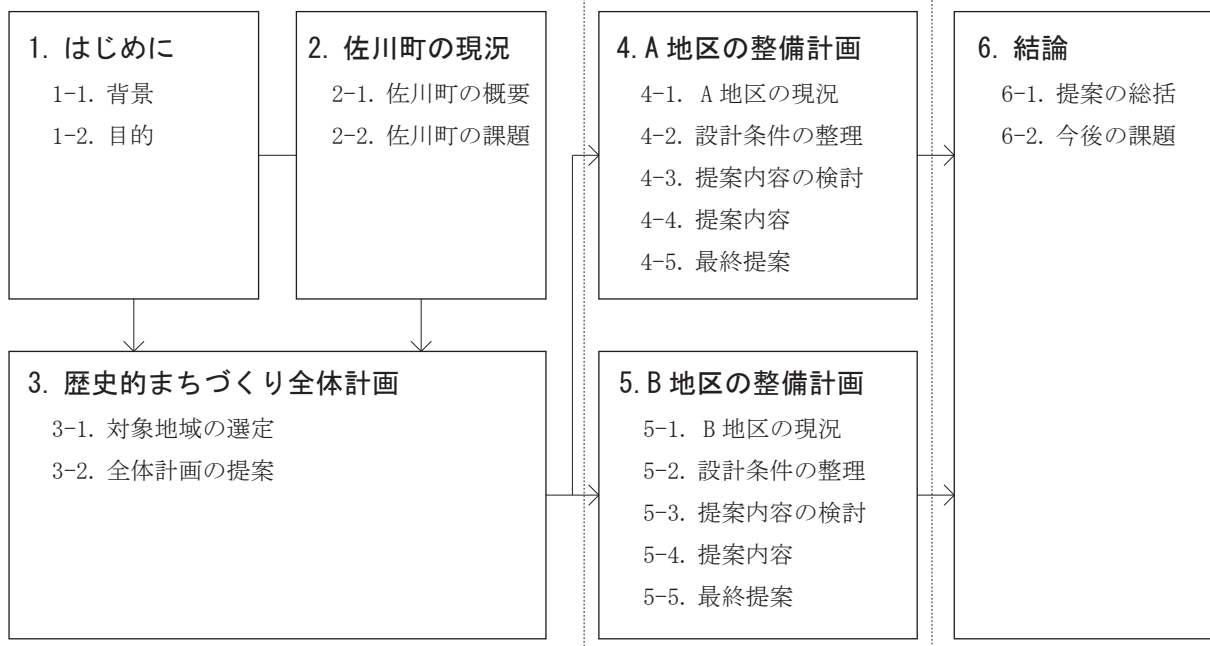


図1. 修士設計の構成図

拠点地区の整備計画

## 2. 佐川町の現況

「文教のまち」・「酒づくりのまち」・「桜のまち」・「佐川のまちなみ」の言葉に象徴されるように、佐川町は歴史的建築物とともに固有の文化・伝統を現在に残している。

しかし、2008年度、佐川町の現況を把握するために行ったまちなみの再調査によると、約20年前と比べ、駅周辺部を中心に歴史的建築物が減少していることがわかった。

## 3. 歴史的まちづくり全体計画

全体計画の提案は、まず、対象地域を6つの地区に区分し、それぞれの将来像を定めた。そのほか、動線計画・街路整備と基本方針・新たな交通規制等を提案し、対象地域内に点在する歴史的建築物をネットワークした。

これらの提案を考慮したうえで、歴史的まちづくりの拠点となりうる地区を選定した。

本修士設計では、この2つの地区をそれぞれA地区・B地区として計画を行った。(図2)

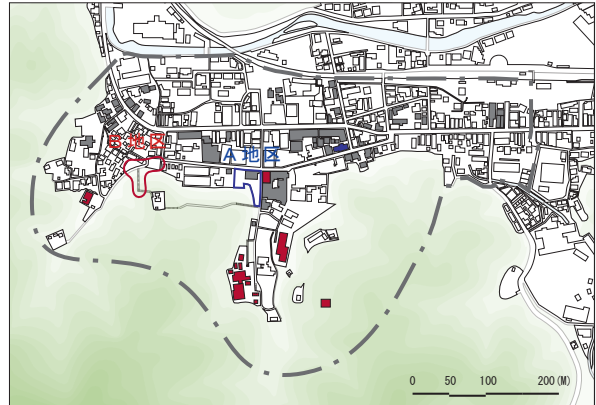


図2. 拠点地区の位置図

## 4. A地区の整備計画

A地区は浜口家住宅と旧青山文庫移築予定地で構成される。

まず、現在はほとんど利用されていない浜口家住宅の実測を行い現況図面を作成した。次に、設計条件を整理したうえで、旧青山文庫移築後の空間検討と機能検討を行い5つの整備イメージを作成した。

そして、作成した5つの整備イメージを佐川町歴史的風致維持向上協議会にて提案し、選定された「佐川町で泊まる」を本修士設計の最終提案として設計を行った。

具体的には、旧青山文庫を観光案内所、浜口家住宅を旅館として設計を行ったほか、敷地南の外部空間に上町アーケードという半屋外の回廊を計画した。上町アーケードは、旧青山文庫を訪れた観光客が自然の道へと移動するための空間としてだけでなく、地域住民が日常的に利用できる憩いの場として計画を行った。



写真3. 模型写真1

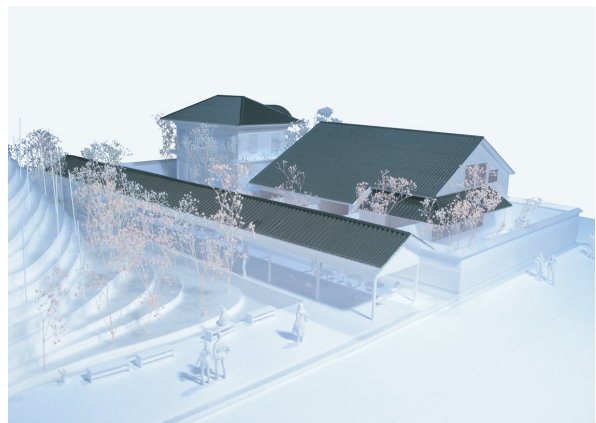


写真4. 模型写真2

## 5. B地区の整備計画

B地区は牧野富太郎生誕跡地と金峰神社周辺林地で構成される。

まず、佐川町からの要望である牧野富太郎の生家の復元を、写真（写真5）と文献、主な出来事をまとめた年表等を作成し検討した。次に、生家の復元以外の整備方針を含め、どのような機能が適しているか機能検討を行い5つの整備イメージを作成した。

そして、作成した5つの整備イメージを佐川町歴史的風致維持向上協議会にて提案し、選定された「牧野富太郎資料館」を本修士設計の最終提案として設計を行った。（写真6）

当時の敷地と比べて現在の敷地は小さいことが想定されるため、完全な復元は不可能である。そこで、生家の復元は母屋と付属屋のみを行い、敷地南の外部空間は牧野富太郎に縁のある植物を展示するための庭として計画した。また、資料館として機能させるために当時の間取りを一部変更した。

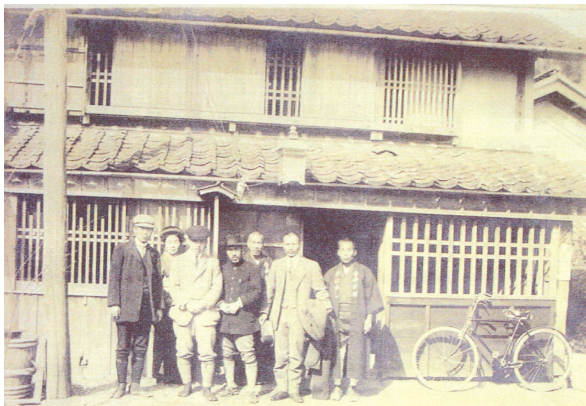


写真 5. 母屋と推測される建物

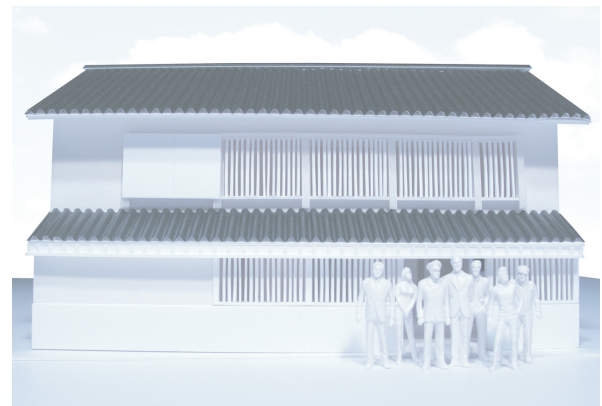


写真 6. 模型写真

## 6. 結論

本修士設計にまとめた全体計画及び拠点地区の整備計画において共通していることは、佐川町の歴史や文化を考慮し設計に反映したという点である。歴史的まちづくりは全国の地方都市で行われているが、いかに佐川町のオリジナリティを引き立たせた計画にするかを共通のテーマに挙げた。なぜなら、次年度からの実施事業も含め、今後最も必要となるのは住民が主体となった歴史的まちづくりのソフトウェア形成であると考えたからである。住民にとって、愛着の持てるような整備計画を行くことで、まちづくりへの関心や理解が少なからず得られ住民主体のソフトウェア形成のきっかけとなる。

本修士設計で提案を行った全体計画及び拠点地区の整備計画は、佐川町の歴史や文化を反映し住民が愛着を持つことのできるオリジナルな提案であると同時に、普段生活している住民が気がつかない佐川町の良さを再発見できるような整備計画であると考えている。